

びわこカップ 2022 第 27 回近畿高校スポーツクライミング大会滋賀県予選 実施要項

目的: 滋賀県クライマーの技術・体力の向上とスポーツクライミングの普及と安全指導を目指す。

第 27 回近畿高校スポーツクライミング大会の選手を選考する。

主催: 滋賀県山岳連盟 滋賀県高等学校体育連盟登山専門部

主管: 滋賀県山岳連盟 滋賀県高等学校体育連盟登山専門部

期日: 2022 年 9 月 24 日(土)8:30~17:00(雨天決行)

会場: 大津市比良げんき村[滋賀県大津市北小松 1769-3 TEL 077-596-0710]

緊急連絡先: 滋賀県山岳連盟携帯電話 090-3722-3902

日時	内容	備考
9/23(金)	大会準備(ルートセットは 9/21-22 予定) テントは参加者各自の持ち込みとする 予選ルートデモクライミングの撮影とネット配信	クライミング委員 小林、柴田、太田、西、畦崎 山岳連盟 橋山、藤永、他 ルートセット (徳永潤一、沼尻拓磨)
9/24(土)	8:30~ <u>準備作業(クライミング委員)</u> 8:45~ 受付(JR 北小松 8:15 着 8:49 着) 9:20~ 競技役員打ち合わせ 9:30~ 開会式(ステージ前、学校ごとに整列) 9:50~ ミドル準決勝、マスター予選の競技開始 12:00 ミドル予選、マスター予選の競技終了予定、結果発表 マスター、ミドル決勝進出者のアイソレーション開始 決勝進出者アイソレーションクローズ 決勝ルートセット 昼食 13:00~ 審判、競技役員(セッター、ジャッジ)打ち合わせ 13:30 決勝開始、女子、男子の順で行う。 ミドル決勝競技開始、オブザベーション(6分) マスター決勝競技開始 オブザベーション(6分) 15:30 競技終了 16:00~ 閉会式 結果発表・表彰式 強化選手発表 16:15 近畿高校 SC 大会強化練習会の打ち合わせ 後片付け、解散	競技会役員 公認審判員 山岳連盟関係者 ビレイ担当 大越さん他 競技時間 4分 (フラッシングトップロープ) 決勝競技時間 6分 (オンサイトリード方式) 団体表彰の用意あり (学校、山岳会の男女別 2名) 男女の総合成績を合計して上位の団体に対し 男女別に優勝カップを貸与し翌年に返還。 申し込みにて所属団体が記載されていること。

参加資格など: 滋賀県に住む方、県内の学校に通う方、県内に勤務する方、滋賀県山岳連盟会員。

大会当日の2週間前からの健康観察を行うこと、当日の体温測定と手の消毒、マスクの着用など

【高校生】滋賀高体連登山部に加盟するクラブに所属する高校生のうち、下記に該当する者

8月20日(土)の予備予選において、成績上位者(男女20位)および、各校より推薦された者(各校男子2名、女子2名)

【一般】県内在住、又は県内に勤務する者をマスター(5.12以上)、ミドルに分けて受け付ける。(小中学生も可)

申し込み: 所定の用紙にて、申し込みを行う。高校生は学校単位で申し込む。

参加費 高校生以下 500 円、滋賀県山岳連盟登録会員 1,000 円、一般 2,000 円当日徴収

申込締切: 9 月 5 日(月)必着

申込先: 〒523-0816 近江八幡市西庄町 5 kobayashi-hiroyuki-7038@pref-shiga.ed.jp

八幡工業高校 小林 広幸 TEL0748-37-7227 FAX 0748-37-1174

選考選手: 男子 5 名、女子 3 名及び、補欠男女各 2 名を選考する。マスターの部より総合優勝、強化選手を選ぶ。

選考された選手は強化練習会に参加し、第27回近畿高等学校 SC 大会に参加し全国選抜大会をめざす。

1.競技内容(IFSC のリード競技規則 2021年 6 月発行に準拠しておこなう)

オンサイトリードによって登り、到達高度を競う。ただし予選、準決勝はフラッシングトップロープ。

(1)予選、準決勝 … フラッシングトップロープ方式(オープン方式)で実施する。

- a)登る順番は、二班に分けて予備予選の順位の逆順とする。(付則 a)
- b)登撃時間は 4 分とする。スタートはビレイヤーの指示に従い登り始めた時。
- c)競技役員のデモンストレーション動画をネットにアップする予定。前日の午後 6 時以降に見られる。

(2)ミドル決勝、マスター決勝 … オンサイトリード方式で実施する。

- a)アイソレーション・エリア(隔離地域)で隔離する。通信機器の持ち込み禁止。
 - ・他の選手の登りを見ることはできない。またオブザベーション時以外はルートを見ることはできない。
 - ・アイソレーションルーム内にある待機場場で出場まで待機する。
- b)オブザベーション(観察)は 6 分間とする。
 - ・双眼鏡の使用やメモを取ることは可、ビデオやカメラの使用は不可である。
 - ・ホールドをさわるとは可とする。ただし、両足が床から離れてはいけない。
 - ・そのルートに特別な事情やルールがある場合、ルートセッターが説明する。
 - ・また、質問に対しルートセッターは全員に聞こえるように回答する。
- c)登撃順は、予選、準決勝で下位のものからとする。
- d)競技エリアに入り、40 秒以内に登りを開始する。(開始とは両足が床面から離れた時点)
 - ・30 秒経過後も登りを開始しない時、審判は登るように指示し、従わないときは失格。
- e)登撃時間は 6 分とする。
 - ・両足が床面から離れた時点から計時を開始する。

2.完登の定義

最後のクイックドロウにロープをクリップする。

3.停止事項

- a)フォールした。
 - b)時間切れとなった。
 - c)壁の端や上部と下部の継ぎ目の利用。デマケーション(黒ライン)を越えた部分を利用した。
 - d)登りを開始後、再び地上に戻った。
 - e)人工登撃の手段を用いた。(例:ハンガーに触ったり踏んだ、クイックドロウを掴んだ。)
 - f)ロープにテンションがかかった。(自重をはずけた。)
 - g)選手は、クリップドロウのカラビナに順番にレジティメイト・ポジションよりクリップしなければならぬ。
 - h)観客からルートやムーブの指示があった。(違反が明瞭な場合、選手は失格、観客は退場)
- 停止事項があった場合、審判は競技の中止を命じ、停止事項が生じた時点のホールドの位置を記録とする。

4.成績の判定

- a)記録は、競技終了時まで手で保持した最も高位のホールドの位置となる。
- b)ホールド保持の記録は、+(プラス)、N(ノーマル)の 2 段階で、ホールドの位置に付記され順位に反映される。
 - +プラス … 次のホールドを取る上で有効なムーブを行なった。(十と記入)
 - N(ノーマル) … ホールドを保持した。(特に付記しない)

5.テクニカルインシデント

競技中に主催者側の責任において競技条件の平等性が損なわれた場合、選手がその時点で申告すれば、5 人以内に割り込んで登りをやり直すことができる。この場合、よい方が記録となる。

(例:ホールドが回転した。ホールドが破損した。)

6.ランキングの決定

- a)決勝での順位を総合順位とする。

- b)決勝で同位(タイ)の場合は予選順位が上位のものを上位とする。
- c)予選も決勝も同位(タイ)の場合は決勝タイムが短いものを上位とする。
- d)予選敗退者は,予選の順位によって総合順位を決定する。

7.団体表彰について

- a)申し込み時に同じ所属団体(滋賀県内の学校、滋賀県山岳連盟に所属する山岳会)の記載があること。
- b)同じ所属団体からの参加者が複数あること
- c)男女総合成績順位について2名の順位の合計をして、上位の団体を表彰する。
- d)男女各1位の団体に優勝カップを渡す。このカップは団体が持ち帰り、翌年に返還することとする。

附則

- a)予選の登る順番は、過去の成績などを参考にする。
準決勝の登る順番は、予備予選の順位の逆順とする。
- b)選手のロープのセットはエイトノットとし、選手自身がおこなう。決勝のロープは各自で持参する。
- c)ルートセットの日を含め以降は大会当日まで会場に立ち入ったり不当にルート情報を得ないこと。